

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 5 年次生 嶋田 真子

## 1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて、平成 29 年 8 月 25 日（金）から 8 月 31 日（木）の間、スペインバルセロナに滞在し、European Society of Cardiology (ESC) にて学会発表をさせていただきましたので報告させていただきます。



写真 1 : ESC 学会会場

## 2. European Society of Cardiology (ESC) 学会

ヨーロッパにおいて最大の死因であり、年間死亡率の約半数を占めているのが心血管疾患です。心血管疾患の負担を軽減させるため、世界最大規模である ESC 学会が開催されています。今年は、スペインバルセロナで 8 月 26 日（土）から 8 月 30 日（水）までの 5 日間開催されました。会場にはたくさんの方が毎日朝早くから来場して、いろんな場所で発表が行われており、学会の規模の大きさに圧倒されました。

## 3. e-POSTER 発表

私は、8 月 29 日（火）午前 10 時から抗凝固療法における BEST POSTER 部門に参加しました。私が参加させていただいた部門は e-POSTER で、スクリーン上に映るポスターを、ボタンを操作して拡大したり、前後左右に移動させたりして発表しました。約 10 分強の間、主に 2 人の議長の方が発表を聞き、質疑応答してくださいました。初めての学会発表かつ初めての国際学会発表でとても緊張しましたが、「ゆっくり、はっきりと大きな声で発表したら大丈夫」と先生に助言をいただき、最後まで落ち着いて発表することができました。発表後、“Congratulations!”と議長の方に褒めていただき、とても嬉しくて涙が出そうでした。しかし、発表前にボタンの操作の練習をしていたのにもかかわらず上手く拡大することができなかったり、聞き取れない質問内容があったり、練習中、オクスフォード大学の学生に“どういうポスター内容なのか”と聞かれたときに、うまく自分の言葉を英語にして伝えることができなかったり、自分の未熟さを大いに実感した学会でもありました。



写真 2 : 発表場所



写真 3 : 発表

#### 4. Exhibition

本学会では、Exhibition において企業が展示しているブースがたくさんありました。学会会場にいる時間の多くをこの Exhibition の会場に行き、様々な企業の方と会話をしました。英語に自信がなく、初めはなかなか話しかけることができませんでしたが、勇気を出して “薬学部生です。あまり英語は話せませんが、あなたの企業に興味があります。教えていただけませんか？” と話しかけてみると、分かりやすい英語で丁寧に教えていただき、Exhibition で企業の方とお話しするのがとても楽しくなりました。いろんな表現で流暢な英語をしゃべれたら、一回で聞き取れることができたなら、もっと話が弾んだのではないかと思います悔しかったですが、医療に関する会話を英語ですることができてよい経験になりました。これからも積極的に話しかけ、多くのことを習得していきたいと思います。

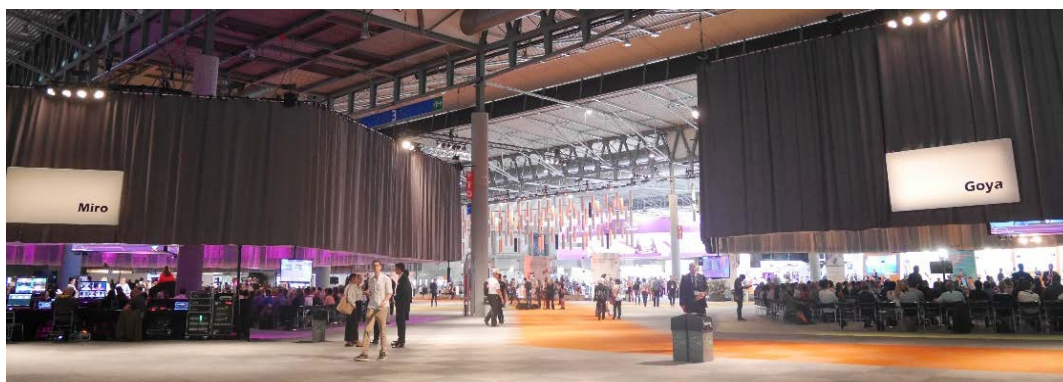


写真 4 : 会場

## 5. おわりに

今回、国際交流基金助成事業の助成金により国際学会で発表させていただき、非常に貴重な経験をさせていただきました。学会に出させていただいたことで、研究内容に関する知識を深めることができましたが、まだまだ臨床と研究内容がどのように結びついているのかが分かっていないと思いました。今回の経験を糧とし、今後の研究や語学学習に活かしていきたいです。また、美術館や建築など、スペインの芸術にもたくさん触れさせていただきました。美術館はあまり興味がなかったのですが、作品に込められている歴史や思いなどを学ばせていただき、背景が分かれると面白いということに気がきました。

最後に、このような機会を与えて下さった林哲也教授をはじめとする、循環病態治療学研究室の先生方、先輩方、同級生およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。



写真5：サグラダファミリア